

各関係機関長 殿  
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
病害虫防除所長  
(公印省略)

平成29年度農作物病害虫発生予察情報について

平成29年度農作物病害虫発生予報第5号を発表したので送付します。

---

### 平成29年度農作物病害虫発生予報第5号

平成29年7月14日  
徳 島 県

## I. 普通作物

### 早期水稻

穂いもち

#### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない), 発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では, 葉いもちの発生圃場率が21.1%, 発病度が2.1と, 平年(27.5%, 1.8)並の発生である。
- (2) 7月13日発表の1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量および日照時間はほぼ平年並, 特に期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており, 発生抑制的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉いもちの発生が多い圃場では, 液剤による薬剤防除を使用基準を確認の上, 出穂直前までに行う。
- (2) 窒素質肥料を過用しないこと。特に, 出穂前後の窒素過多は穂いもちが発生しやすくなるので, 穂肥, 実肥の施用時期・量に注意する。

紋枯病

#### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年より少ない)で, 発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では, 発生圃場率が16.7%, 発病度が0.2と, 平年(13.9%, 0.8)並の発生である。
- (2) 7月13日発表の1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量および日照時間はほぼ平年並, 特に期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており, 発生助長的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し, 基幹防除を励行する。発生が多い場合には出穂直前に防除を追加し, 上位葉へ薬剤が十分かかるように散布する。

セジロウンカ

#### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年より少ない)で, 発生程度は「少」

## 2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では、発生圃場率が63.2%と、平年(53.9%)並の発生であるが、株当たり虫数は0.08頭と、平年(0.20頭)に比べてやや低い。
- (2) 7月13日発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量および日照時間はほぼ平年並、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており、発生助長的な気象条件である。

## 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し、特に、苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では、防除に努める。

## トビイロウンカ

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 予察灯の飛来調査では、誘殺を確認していない。
- (2) 7月前半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が0.5%、株当たり虫数が0.00頭)。
- (3) 7月13日発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量および日照時間はほぼ平年並、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており、発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し、特に、苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では、防除に努める。

## コブノメイガ

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年より少ない)で、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では、発生圃場率が10.5%、被害株率が0.4%と、平年(9.8%、1.4%)並の発生である。
- (2) 7月13日発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量および日照時間はほぼ平年並、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており、発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 防除が遅れると幼虫による葉の食害が進むので、今後の発生に十分注意し、苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では、防除に努める。
- (2) 出穂期頃に被害が目立ち、被害葉が白くなった頃には幼虫が老熟しており、薬剤の効果が劣る。

## 斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ等)

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「中～多」

### 2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の水田周辺の雑草地における生息調査(1地点当たり捕虫網20回振り)では、19地点のうち8地点で生息を確認した。捕獲地点率が42.1%、1地点当たりの捕獲虫数が6.2頭と、平年(64.5%、8.5頭)並の発生である。
- (2) 7月13日発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量および日照時間はほぼ平年並、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており、発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 斑点米カメムシ類の生息場所となる周辺雑草を、水稻出穂の10～15日前までに除去・処分する(出穂直前の除草は本田内に斑点米カメムシ類を追い込むことにならない)。
- (2) 出穂が早い圃場に集中して飛来する傾向があるので、周辺雑草地や本田での発生に注意し、発生を認めたら早急に防除を行う。
- (3) 薬剤散布については各薬剤の登録内容を確認のうえ、液剤等で出穂期と乳熟期(出穂後約2週間頃)の2回防除を行う。

## 普通期水稻

### いもち病

#### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない), 発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では, 葉いもちの発生圃場率が16.7%, 発病度が 0.7と, 平年(25.6%, 2.1)に比べやや低い。
- (2) 7月13日発表の1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量および日照時間はほぼ平年並, 特に期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており, 発生抑制的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 苗箱処理剤にいもち病対象薬剤を用いていない圃場において, いもち病の発生を認めた場合は, 速やかに薬剤防除を行う。また, その後も病勢の進展が見られるようであれば追加防除を行う。
- (2) 葉いもちの発生が多い圃場では, 薬剤の登録内容を確認の上, 粒剤は出穂10日前までに, 液剤は出穂直前までに防除を行う。また, 出穂後曇雨天が続いた場合には穂揃期にも防除を行うとともに, 穂肥の施用量は控えめとする。

### 紋枯病

#### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い), 発生程度は「少～中」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では, 発生圃場率が23.3%と, 平年(7.6%)に比べ高く, 発病株率も 2.4%と, 平年(1.2%)に比べやや高い。
- (2) 7月13日発表の1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量および日照時間はほぼ平年並, 特に期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており, 発生助長的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し, 基幹防除を励行する。発生が多い場合には出穂直前に防除を追加し, 上位葉へ薬剤が十分かかるように散布する。

### セジロウンカ

#### 1) 予報内容

発生量 平年並～やや多く(前年よりやや少ない), 発生程度は「少～中」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では, 発生圃場率が70.0%, 株当たり虫数が 0.1頭と, 平年(50.1%, 0.2頭)並の発生である。
- (2) 7月13日発表の1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量および日照時間はほぼ平年並, 特に期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており, 発生助長的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し, 特に, 苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では, 防除に努める。

### トビイロウンカ

#### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で, 発生程度は「少」

#### 2) 予報の根拠

- (1) 予察灯の飛来調査では, 誘殺を確認していない。
- (2) 7月前半の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は, 発生圃場率が 0.3%, 株当たり虫数が 0.00頭)。
- (3) 7月13日発表の1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量および日照時間はほぼ平年並, 特に期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており, 発生助長的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生に十分注意し, 特に, 苗箱処理剤による防除を行っていない圃場では, 防除に努める。

斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ, ホソハリカメムシ, クモヘリカメムシ等)

1) 予報内容

発生量 平年並～やや多く(前年よりやや多い), 発生程度は「多」

2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の水田周辺の雑草地における生息調査(1地点当たり捕虫網20回振り)では, 30地点のうち25地点で生息を確認した。捕獲地点率が83.3%, 1地点当たりの捕獲虫数が9.1頭と, 平年(69.0%, 10.0頭)並の発生である。
- (2) 7月13日発表の1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量および日照時間はほぼ平年並, 特に期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており, 発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 斑点米カメムシ類の生息場所となる周辺雑草を, 水稻出穂の10～15日前までに除去・処分する(出穂直前の除草は本田内に斑点米カメムシ類を追い込むことになるので行わない)。
- (2) 出穂が早い圃場に集中して飛来する傾向があるので, 周辺雑草地や本田での発生に注意し, 発生を認めたら早急に防除を行う。
- (3) 薬剤散布については各薬剤の登録内容を確認のうえ, 液剤等で出穂期と乳熟期(出穂後約2週間頃)の2回防除を行う。

サツマイモ

食葉性害虫(ハスモンヨトウ, シロイチモジヨトウ, ナカジロシタバ等)

1) 予報内容

発生量 平年並～やや多く(前年並), 発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では, 食葉性害虫による被害発生圃場率が100%, 被害度が11.5で, ほぼ平年(88.2%, 8.6)並の発生である。
- (2) 6～7月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査4圃場の平均)は,
  - ・ハスモンヨトウでは, 6月第4～6半旬にかけて平年より少なく推移したが, 7月第1半旬よりほぼ平年並に推移している。
  - ・シロイチモジヨトウでは, 6月第5半旬までは, 平年よりやや多く推移していたが, 6月第6半旬以降, 平年並に推移している。ただし, 6月第3～5半旬にシロイチモジヨトウの誘殺数が多かったことより, 7月第4半旬以降, 次世代幼虫の発生が多くなると考えられる。
- (3) 7月13日発表の1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量および日照時間はほぼ平年並, 特に期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており, 発生助長的な気象条件である。

月半旬	ハスモンヨトウ					シロイチモジヨトウ				
	2017年	2016年	2015年	2014年	平年	2017年	2016年	2015年	2014年	平年
6.3	32	65	90	23	33	69	39	18	21	19
6.4	9	227	36	23	49	88	39	31	36	33
6.5	17	153	39	26	48	61	26	47	27	25
6.6	14	69	46	11	41	27	11	53	15	24
7.1	23	47	23	8	34	31	16	11	32	30
7.2		21	22	10	36		70	20	63	58
7.3		26	15	16	40		33	151	50	117

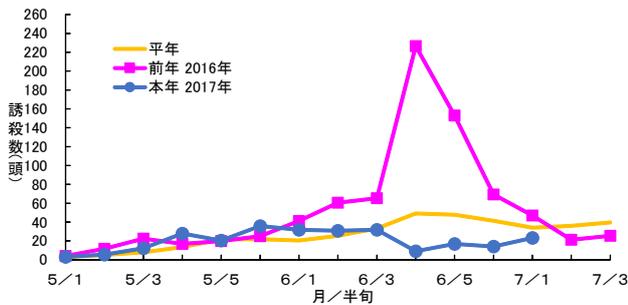


図1 ハスモンヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(甘藷圃場)  
\*徳島市,鳴門市,松茂町の4地点平均

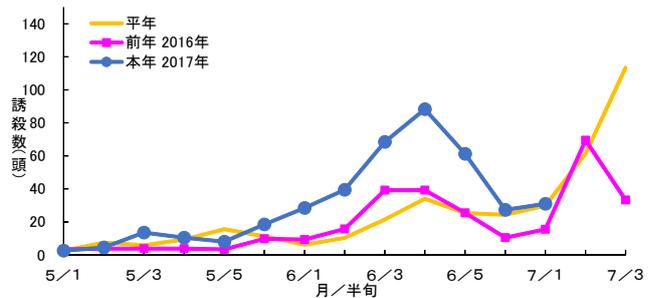


図2 シロイチモジヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(甘藷圃場)  
\*徳島市,鳴門市,松茂町の4地点平均

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、若齢幼虫時に徹底防除を図る。

## ハダニ類

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年より多い)で、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 6月後半の巡回調査で、発生圃場率が81.3%、寄生葉率が36.5%と平年に比べ高かったため、6月30日付けでハダニ類注意報を発令した。その後、7月前半の巡回調査では、発生圃場率が37.5%、寄生葉率が3.6%で、平年(39.9%、4.2%)並の発生となっている。
- (2) 7月13日発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量および日照時間はほぼ平年並、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており、発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、十分な量の薬液を散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

## II. 果樹

### カンキツ

#### ミカンハダニ

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「中」

### 2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では、発生圃場率が56.3%、寄生葉率が4.4%と、平年(63.8%、6.5%)並の発生である。
- (2) 7月13日発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量および日照時間はほぼ平年並、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており、発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、十分な量の薬液を散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

### ナシ

#### 黒星病

### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では、発生圃場率が12.5%、発病葉率が0.1%と、平年(8.0%、0.3%)並の発生である。なお、発病果実は認めていない。
- (3) 7月13日発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量および日照時間はほぼ平年並、特に期

間の前半は気温がかなり高くなると予測されており、発生抑制的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 秋季(10～11月)にはりん片感染が盛んになり、翌年の伝染源となるため、秋季防除を行う。
- (3) 罹病葉、落葉は伝染源となるため、集めて土中に埋める。

## Ⅲ. 野菜

### 夏秋ナス

#### うどんこ病

##### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では、発生圃場率が22.2%と、平年(14.4%)に比べやや高いが、発病葉率は0.6%と、平年(1.5%)に比べやや低い。
- (2) 7月13日発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量および日照時間はほぼ平年並、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 窒素質肥料の過用を避ける。
- (2) 落葉した罹病葉は適切に処分する。
- (3) 病斑が進展し葉の表面が菌叢で覆われると、薬液が弾かれ防除効果が劣るので、展着剤を加用し散布する。
- (4) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

#### アザミウマ類

##### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「中」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では、発生圃場率が55.6%、寄生葉率が4.4%と、平年(60.7%、3.5%)並の発生である。
- (2) 7月13日発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量および日照時間はほぼ平年並、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており、発生助長的な気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。葉表より葉裏への寄生が多いので、防除の際には、葉裏にも十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

#### オオタバコガ(7月6日付けで注意報発令中)

##### 1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「多」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では、産下卵確認圃場率が22.2%、100葉当たり平均卵数が0.3卵と、ほぼ平年(44.4%、0.6卵)並の発生である。また、幼虫による被害果実発生圃場率は11.1%、被害果率は0.1%であった。
- (2) フェロモントラップへの誘殺頭数(7地点平均)は、6月第5半旬から増加し、7月も平年より多く誘殺されている。

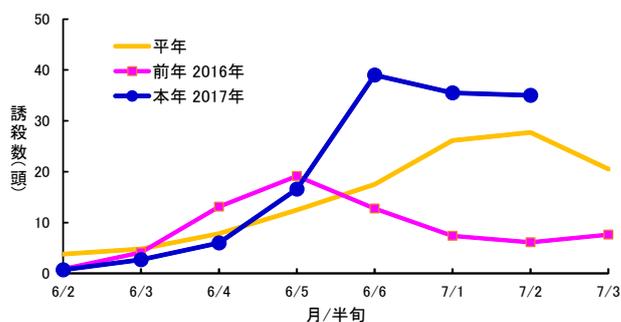


図3 オオタバコガフェロモントラップ誘殺数推移  
※阿波市、三好市、東みよし町、石井町の7地点平均

(3) 7月13日発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量および日照時間はほぼ平年並、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており、発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 被害部位(果実、花蕾)や剪定後の茎葉には卵や幼虫が付着している可能性があるため、圃場外に持ち出して適切に処分する。
- (2) 果実や茎、花蕾に食入した幼虫や発育が進んだ幼虫に対しては薬効が著しく低下するので、若齢幼虫主体の時期に薬剤防除を行う。
- (3) 本虫は作物の花蕾や生長点付近の新葉に1個ずつ産卵する。野外での卵期間は3日程度であり、今後、8月上旬にも幼虫の発生ピークが来ると見込まれる。その後多い状態が続くため、防除適期が判断しづらくなる場合もあるので、寄生部位を注意深く観察してから防除する。

## ハダニ類

### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

- (1) 7月前半の巡回調査では、発生圃場率が22.2%と、平年(34.6%)並の発生であるが、寄生葉率は0.7%と、平年(3.6%)に比べ低い。
- (2) 7月13日発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量および日照時間はほぼ平年並、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており、発生助長的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類は大半が葉裏に寄生しているため、防除の際には、葉裏に十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

## IV. その他

- 1) 薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水する。

### 予報内容の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所  
URL : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。